M	0.1	2.0	0.1	2.8
N	—	4.9	0.1	—
O	0.1	4.8	0.1	—
P	0.2	0.4	0.1	4.3
Q	0.2	0.3	0.1	4.4
R	0.3	0.4	0.2	4.1
S	0.2	0.1	—	4.7
T	0.5	0.5	0.4	3.6

⑹　計量器・用器

計量器は、飼料添加物の試験において、計量に用いる器具又は機械である。

用器は、飼料添加物の試験において、その条件をできる限り一定にするために定めた器具である。

温度計

通例、浸線付温度計（棒状）又は日本工業規格の全没式水銀温度計（棒状）の器差試験を行ったものを用いる。ただし、凝固点測定法、融点測定法（第１法）、沸点測定法及び蒸留試験法には、浸線付温度計（棒状）を用いる。

浸線付温度計（棒状）は、次に示すものとする。

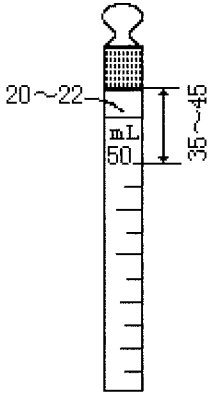
	１号	２号	３号	４号	５号	６号
液体	水銀	水銀	水銀	水銀	水銀	水銀
液上に満たす気体	窒素	窒素	窒素	窒素	窒素	窒素
温度範囲	−17〜50℃	40〜100℃	90〜150℃	140〜200℃	190〜250℃	240〜320℃
最小目盛	0.2℃	0.2℃	0.2℃	0.2℃	0.2℃	0.2℃
長目盛線	1℃ごと	1℃ごと	1℃ごと	1℃ごと	1℃ごと	1℃ごと
目盛数字	2℃ごと	2℃ごと	2℃ごと	2℃ごと	2℃ごと	2℃ごと
全長（mm）	280〜300	280〜300	280〜300	280〜300	280〜300	280〜300
ミキの直径（mm）	6.0±0.1	6.0±0.1	6.0±0.1	6.0±0.1	6.0±0.1	6.0±0.1
水銀球の長さ（mm）	12〜15	12〜15	12〜15	12〜15	12〜15	12〜15
水銀球の下端から最低目盛線までの距離（mm）	75〜90	75〜90	75〜90	75〜90	75〜90	75〜90
温度計の上端から最高目盛線までの距離（mm）	35〜50	35〜50	35〜50	35〜50	35〜50	35〜50
水銀球の下端から浸線までの距離（mm）	60	60	60	60	60	60
頂部形状	環状	環状	環状	環状	環状	環状
許容誤差	0.2℃	0.2℃	0.2℃	0.2℃	0.2℃	0.4℃

化学用体積計

全量フラスコ、ピペット、ビュレット及びメスシリンダーは、検度したものを用いる。

ネスラー管

無色で、厚さ1.0〜1.5mmの硬質ガラス製の共栓付円筒で、図に示すものであって、それぞれの管の50mL目盛線の高さの差が２mm以下のものを用いる。



数字はmm

はかり及び分銅

①　化学はかり　0.1mgまで読み取れるものを用いる。

②　セミミクロはかり　0.01mgまで読み取れるものを用いる。

③　ミクロはかり　0.001mgまで読み取れるものを用いる。

④　分銅　器差試験を行ったものを用いる。

ふるい

日本工業規格の標準ふるいを用いる。

⑺　ろ紙

ろ紙は、ろ過の目的に適するように特に留意して作られた紙である。

ろ紙は、次に示す規格のものを用いる。なお、「ろ紙」と記載し、特にその種類を示さないものは、定性分析用ろ紙を示す。ろ紙は、ガス等により汚染されないように保存する。

定性分析用ろ紙　日本工業規格のろ紙（化学分析用）の定性分析用の規格に適合するものとする。

定量分析用ろ紙　日本工業規格のろ紙（化学分析用）の定量分析用の規格に適合するものとする。

クロマトグラフィー用ろ紙　定量分析用のろ紙の規格及び次に示す規格に適合するものとする。ただし、α繊維素含量、銅価、pH、灰分量、ろ水時間及び湿潤破裂強さの試験にあっては、日本工業規格の規定の方法により、吸水高度の試験にあっては、次に示す方法により行う。

吸水高度の試験

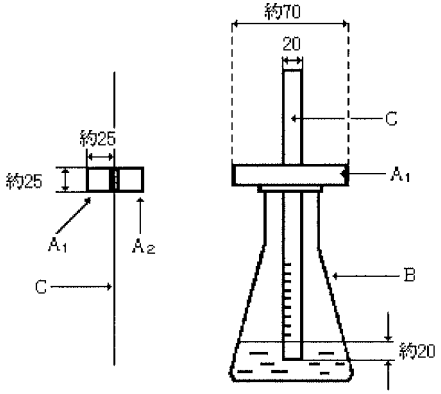
装置

図に示すものを用いる。

A_1及びA_2：ろ紙保持用ガラスブロック

B：三角フラスコ（容量約1,000mL）

C：試料ろ紙



数字はmmを示す